<ティーチングポートフォリオ>

家政学部家政学科服飾文化専攻
講師 何　水蘭

1.教育の責任

家政学部家政学科において、服飾文化専攻の専門科目、衣料管理士（TA）資格取得に関する協会認定登録科目、およびファッションデザイナー育成のための科目を担当している。これらの科目は主にファッションデザインに関連する分野に属しており、担当科目の一覧を以下の表に示す。

授業科目	学部・学科・専攻	学年	単位数	形態	必・選	免許資格
西洋服装史	家政学部家政学科服飾文化専攻	1 年前期	1	講義	選	
ファッションデザイン画	家政学部家政学科服飾文化専攻	1 年後期	1	講義	選	
ファッションデザイン	家政学部家政学科服飾文化専攻	2 年前期	1	講義	選	TA
家政特別演習（研修旅行）	家政学部家政学科服飾文化専攻	2 年集中講義	1	実習	必	
家政特別講義 I	家政学部家政学科服飾文化専攻	2 年集中講義	1	演習	選	
ファッションデザイン演習	家政学部家政学科服飾文化専攻	2 年後期	2	演習	選	
色彩学	家政学部家政学科服飾文化専攻	2 年後期	1	講義	選	
服飾生活特別演習	家政学部家政学科服飾文化専攻	3 年通年	2	演習	選	
専門研究 1	家政学部家政学科服飾文化専攻	3 年通年	4	演習	必	
専門研究 2	家政学部家政学科服飾文化専攻	4 年通年	4	演習	選	

それ以外にも、大学祭のファッションショーにおける運営や衣装制作の指導を行い、学生が実際のイベントを通じて企画・制作の実践経験を積めるよう支援している。また、外部のファッションショーにおいては、総括としてデザインに関する指導を行い、学生がより高度な表現力や実務的なスキルを身につけられるようサポートしている。さらに、イベントと通じて、イシイ株式会社、株式会社 NON や AITalk などの企業と連携し、最新の技術や情報

を学生に提供することで、デザイン分野における実践的な学びの機会を拡充している。これにより、学生はファッション業界の最新動向を理解し、現場で即戦力となるスキルを養うことができるよう努めている。

2.教育の理念

教私の教育理念は、学生が主体的に学び、創造力を最大限に発揮できる環境を構築することである。ファッションデザインをはじめとする芸術分野においては、知識の伝達に留まらず、実践と対話を通じて個々の感性を磨くことが重要だと考えている。授業では、課題解決型プロジェクトやグループディスカッション、実技演習を取り入れることで、学生自らが試行錯誤し、失敗から学ぶ機会を提供する。これにより、学生は柔軟な発想と論理的思考を養い、既存の枠組みにとらわれずに新たな価値を創出できるようになる。また、最新の技術や情報を積極的に活用し、グローバルな視野を持った教育を展開することで、未来社会に貢献する人材育成を目指す。教育は一方通行の知識伝達ではなく、師と学生が共に学び合い、成長し合うプロセスであると信じ、革新的なアプローチと伝統的な知恵の融合を追求する。これにより、学生は自らの夢と可能性に気づき、現実の課題に挑戦する力を備えると考える。この教育アプローチは、従来の画一的な教授法に挑戦し、学生一人ひとりの独創性と実践力を引き出すことを目的としている。未来への可能性を信じ、共に成長する学びの場を着実に築き上げ夢を紡ぐ。

3.教育の方法

私が採用している教育方法は、学生が主体的に創造活動に取り組む環境を整備し、各々の感性を最大限に引き出すことを目的としている。授業では、実践的なプロジェクト課題、グループワーク、およびディスカッションを積極的に取り入れ、学生が自由な発想でアイデアを具体化できるよう支援する。特にファッションデザインの授業においては、SDGs の理念を取り入れ、さまざまな素材を活用した演習を通じて理論と実践の両面から学びを深める。また、ファッション業界での経験を生かし、実際の企業が直面する課題を取り上げることで、現実の問題に即したフィードバックを提供し、実務に直結したスキルの習得を促している。さらに、学生同士の意見交換や相互評価の機会を設けることで、失敗を恐れず挑戦する姿勢を育み、自己表現力および問題解決能力の向上を図っている。こうした多角的な教育方法により、学生は未来のファッション業界において革新的なアイデアを生み出す力を確実に身につけることが期待される。

4.教育の成果

2023 年及び 2024 年前期に実施した授業評価アンケートの結果のうち、私が担当した科目に関する学生の評価を以下に示す。

2023 年科目名	回答人数	評価結果
西洋服装史	16	4.88
ファッションデザイン画（前期 2 年）	10	4.8
ファッションデザイン画（後期 1 年）	9	5
服飾生活特別演習	3	4.93
2024 年前期科目	**回答人数**	**評価結果**
西洋服装史	14	4.91
ファッションデザイン	9	5
服飾生活特別演習	6	4.83

どの科目においても良好な評価を得ることができ、特に「ファッションデザイン」と「ファッションデザイン画」では、5 点満点の評価を受けた。少人数クラスでの専門的な授業が多いため、学生一人ひとりに対して丁寧な個別指導を行った。ファッションデザインの授業では、創造的な作品制作の実践を通じて、学生たちが学びを存分に楽しんでいたように思う。

また、授業で制作した作品は展示会やファッションショーに出品され、外部から高い評価を受けた。さらに、学生たちは授業で培った知識と技術を活かし、日本国内のコンテストに挑戦し、入選を果たした実績もある。加えて、国際的な展示会においても優れた評価を得ることができ、学生たちの学びが実践の場で成果を上げていることを実感している。

5.教育の改善と目標

教育の改善と目標は、学習者一人ひとりの個性と創造力を最大限に引き出す環境の構築にある。従来の受動的授業を見直し、対話や実践的課題、グループディスカッション等の参加型教育を導入することで、主体的な学びを促進する。さらに、最新技術の活用や企業連携による実務経験を取り入れ、理論と実践の融合を図る。これにより、未来社会が求める柔軟な思考力と問題解決力を備えた人材の育成を実現し、教育全体の質向上を目指す。本改革は学びのプロセスを再設計し、情報技術と多様な文化背景の融合により、時代変化に対応可能な教育体系の確立を目指す。学生が主体となり、互いに刺激し合いながら着実に成長する環境が、社会発展に十分確実に寄与する。